

人権なら

●ひと・まち・生き生き

2016年7月1日

第67号

NPO なら人権情報センター

今年度事業計画を確認

NPOなら人権情報センターが第16期総会

NPO法人なら人権情報センターは6月18日、奈良プラザホテルで第16期通常総会を開催＝写真。事業報告、事業計画、役員人事などを確認した。

植村照子・理事長があいさつ。「事業を重ねてきているが、まだまだ不十分。活動の強化、推進に努めたい」と決意を述べた。



人権に関わる数々の実施事業を報告

審議に移り、香川明英・専務理事が議案「事業報告並びに実施事業の概要」を提案。①人権教育に関わる調査研究と情報資料の収集を行う事業として、人権情報の収集や広報誌「人権なら」の発行状況②人権教育のための集会・学習会及びフォーラムの開催と講師派遣等事業として、人権学習講座や第7回「差別と人権」研究集会、三宅町の委託事業や人権研修業務委託、田原本町企業内人権教育推進協議会業務委託、講師派遣状況③高齢者及び「障害者」の自立と社会参加を支援する事業として、第36回水平社敬老会や三宅町上但馬団地老人憩いの家指定管理事業状況④基本的人権に係る生活・仕事・教育及び人権侵害に関わる相談事業として、事務所および大和郡山市・宇陀市・河合町などでのDV相談委託業務や相談員のアドバイザー派遣、その他当法人に持ち込まれる様々な相談、経営指導業務委託事業の各種相談事業や米田富顕彰碑管理事業状況を報告した。

議案「収支決算報告」では、植村理事長が寄付金収入に依存した運営状況や、活動基金の取り崩しで収支決算が図られている厳しい現状を報告した。

議案「監査報告」では、富岡初則監事が「事業報告並びに収支等の状況を正しく示し適正」と報告した。

人権課題の具体的方策を委員会で検討へ

議案「事業計画(案)並びに協議事項」は、香川理事が提案。総会や理事会の開催は定期かつ定着化を図る。また、「差別と人権」研究集会の開催準備と総括会議の定着化を図り、実行委員会として課題の共有化をめざす。抱える課題の具体的方策については、委員会を立ち上げ検討していく。事業計画については、第8回奈良県「差別と人権」研究集会の9月3日開催、同研究集会第1回実行委員会の7月12日開催、第37回水平社敬老会の10月8日開催、を提案した。



これらの議案を承認したあと、植村理事長が13人の役員人事を提案。全体で承認した。

映画「ある精肉店のはなし」を観賞し感銘

午後は、映画「ある精肉店のはなし」(写真)を観賞。舞台は大阪・貝塚市の被差別部落にある「北出精肉店」。牛を育て、解体し、精肉、販売する日常の姿が描かれ、地域の盆踊りや秋祭りの様子も紹介される。

被差別部落で牛の屠畜解体、精肉業務を生業として生きてきた北出家の人たちの姿に感動した。参加者からは、太鼓づくりや盆踊りの様子などを懐かしがる声が多かった。

県民歴史講座が開講

同和問題関係資料センターが今年度も6回

県立同和問題関係史料センターが主催する「県民歴史講座」の開講式が6月7日、同センターであった。

奥本武裕・所長が開講あいさつと、今年度の講座の趣旨・目的について説明した＝写真。



奥本所長はセンターの設立と、「部落史の見直し」を提起してきた経過を述べ、なぜ「部落史の見直し」が必要だったのか、を奈良県における部落史研究の概要を提示しながら、話をした。

「政治権力創出論」「貧困低位論」＝近世政治起源説と言われた内容では、歴史資料に現れる被差別部落の姿が位置づかないこと。県内のほとんどの部落が戦国時代までに現在地周辺に集落を形成。いくつかの部落は鎌倉時代から室町時代にまでさかのぼることができること、を指摘した。

また、「条件の悪い土地に強制された」「人の嫌がる仕事」(刑吏役や斃牛馬処理)の強制なども、中世以来の「キヨメ」の職掌に由来するもので、差別的に強制したものではないこと。つまり、「政治・経済の問題としての部落問題から、社会的関係の問題として、生活・文化の問題としての部落問題」を検討することが重要だ、と述べた。

人権概念は社会関係の変化とともに深化

さらに、「21世紀人権」に入り、新しい人権(第3の人権)とも言われる概念が現れている。人権概念は固定されたものではなく、今後も社会関係の変化とともに広がり、深められていくことが予想される。地域社会には「協同・協働、相互扶助の側面」と、「抑圧・排除の側面」があることを見すえ、「地域社会の歴史から学ぶ」ことの大切さを強調した。

次に、穴田敏之さんが「講座概要」を説明したあと、清水有紀さんが「常設展示＝大和の地域社会と被差別

別民衆・新しい地域社会の創造をめざして」を案内。「大和国の歴史の中に被差別民衆が姿を現すのは鎌倉時代。13世紀前半の史料には、奈良町近郊の非人宿の存在が確認できる。13世紀後半では後の穢多村に人びとが『細工』という呼称で記録されるようになる。室町時代になると、宿非人、横行(声聞師)、廟聖(三味聖)、細工(穢多)などが、それぞれの機能によって興福寺や春日社、法隆寺などの寺社に対する役割を果たしていた」と説明した。

多様な被差別民の姿を生き生きと紹介

受講者は多様な被差別民衆の活動や、姿を生き生きと紹介する展示を見学。展示は「穢多村内外の交流」<神社祭礼と穢多村><草場と地域社会>や、<御根太草履の献上><青屋仲間と博労活動>。<忘却される意味>として、時代とともに従来持っていた役割(呪術的・宗教的)や意味合いが忘れ去られていったことや、権益(草場)の廃止などによって、周辺地域との関係も大きく変わっていったことを紹介している。



さらに、「解放令と地域社会」として、<高い部落の教育水準><米田庄太郎><中尾靖軒と大和の人々><中村諦梁と大和同心会><学校分離反対運動><大和同志会><全国水平社>と、展示コーナーが続く。

「新しい地域社会の創造をめざして」では、「被差別部落、三味聖、陰陽師、万歳、座頭、「癩」者…これらの人々は、地域社会の中で、それぞれ独自の役割によって確かな位置を占める一方で、厳しい忌避と排除も受けた。長い歴史のなかで積み重ねられてきた人びとの生活や文化の奥底に潜むものに迫ることが、差別を撤廃していくためには必要」と、まとめている。

今年度の講座計画は、第2回が7月5日、第3回が9月27日、第4回が10月25日、第5回が11月8日、にそれぞれ現地研修。第6回は12月6日に講演会。

横浜の県外研修に参加

と場労組などが広島県で現地研修

横浜市職員・横浜と場労組の県外研修が6月16、17、18日の3日間、広島県であった。誘われて参加した。この県外研修は20年来、実施されている。

16日。午後から、平和記念資料館を見学。その後、フィールドワーク。

案内は山口誠治・部落解放同盟尾長支部書記長に世話になった。コースは平和記念資料館-原発死没



者慰霊碑-韓国人原爆犠牲者慰霊碑-原爆供養塔-原爆ドーム(写真)-元安橋-爆心地(現在、島外科病院の一角にモニュメント設置)。山口さんには原体験をもとに、写真や資料なども交えて、話を伺った。

このあと、この日の宿泊先、呉市へ移動。山口さん、政平智春・広島県連書記長を交え、交流を深めた。

部落解放同盟県連の役員から話を聞く

17日。午前中は呉山手会館で「呉支部環境改善の歩み」のスライド学習と、谷口吉俊・呉支部長の話を伺った=写真。

1889(明治22)年に海軍呉鎮守府(ちんじゅふ・日本海軍の根拠地として艦隊の後方を統轄した機関)の開庁以降、「国策と



して屠場や火葬場、刑務所、野犬処理施設」などが、二河川に流れ込む(金立川)狭い谷あいにあるこの地域に設置される。戦後の部落解放運動によって、と場などの施設が移転。その跡地に地区改良が進み、集合住宅が建った。

谷口支部長の「部落解放運動との出会いがなければ…」との話は、奈良の栗本鉄也さんの姿と重なり、いくつもの残影とともに胸をよぎった。

このあと、西尾かづえ・呉市協事務局次長の案内で、地域内をフィールドワークした=写真。

政平智春・書記長が広島の運動を語る

午後は、政平さんがく広島の部落解放運動と平和運動>について話をした=写真。市内F地区(爆心地

から1.7km~2.5km)の原爆投下による被害状況についての話とともに、「戦争は人権侵害で成り立つ」との言葉が印象深かった。また、「救護や片付け、身内の捜索など」で多くの人々



が地元に入り、被曝した、と語った。話を聞いていて、「原発での被曝」や、イラク戦争で使用された「劣化ウラン弾」による被害などが頭をよぎった。

広島における部落の歴史と解放運動

<広島の部落の歴史と解放運動>についての話では、

「広島の部落の特徴」として、「少数散在、1戸~20戸未満が大多数で、県西部および



南西部の集落では100戸~2000戸」もあること。

また、広島では「部落の人々は革田と呼ばれ、城下町の警備や駐在所的役割を担わされた」ことなどを、史料「革田身分に対する儉約令触」(享保11年・1726年)を紹介しながら話をした。

続いて、「部落解放運動の歴史」として、1969年の県連再建以降、48支部から162支部への取り組みや、96年「地対協」意見具申との闘い、「日の丸・君が代」の闘いなどに取り組んできたことなどを語った。初めて聞く話も多く、興味深かった。

学童クラブで紙芝居

三宅町学童クラブに6月23日、紙芝居屋「ちょんちゃん」こと、鈴木常勝さんがやって来た。授業の関係

で最初は1年生だけが楽しんだ。「ブタがブッタ」は大受け。「ブタがブッタをぶった。ぶたれたブタがぶった。ぶたれたブタをぶったので、ぶたれたブタもぶったブタも、ぶったおれた」。チャンチャン。



続いて、2～6年生40数人がワクワク・笑顔で加わった。「おあばっち」と子どもたちに呼ばれている山本薫さんが「今日は、大阪から紙芝居屋のおっちゃんが来てくれました」と紹介。「はじまり！はじまり！」と、紙芝居「ずる休みの巻」が始まった。

このあと、「怖い話はどうや！」と鈴木さん。子どもたちは「やって、やって」と大騒ぎ。でも、一人の女の子が泣きだした。「じゃ！怖い話は止めとこ」と鈴木さん。子どもたちからはブーイングの嵐。中には泣いた女の子を責める子どもたちも。そこは、紙芝居屋ちょんちゃんの腕の見せ所。子どもたちをなだめ、脅し、「チョツとだけ怖い話・桜姫」を始めた。するとざわついていた

編集後記 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

参院選だ。問われているのはアベ政治の是非。富裕層と大企業だけが得をするアベノミクスは破綻。その証左が「やる」と断言していた消費増税の再引き延ばしだ。このことを安倍首相は「新しい判断」だとして誤魔化す。真っ当な質問には常に真正面から答えない。自分の主張だけを多弁に語り、はぐらかす。総理にふさわしくない。なのに支持率は40%超。摩訶不思議だ。選挙が終われば改憲に進むのは確実。国の形を変え、強い日本、大企業が活躍しやすい国づくりへとひた走る。大多数の国民の暮らしは、ますます悪化する。こんなアベ政治にNO！を突き付けよう。

子どもたちも話に引き込まれ見入ってしまった。



続いて「クイズ」で遊ぶ。正解するとシールがもらえる。最後は、おやつとして「水あめとミルクせんべい」が配られた。

女たちの活動を綴る

映画「何を恐れる」と上野千鶴子講演会

ドキュメント映画『何を怖れるーフェミニズムを生きた女たち』の上映会と上野千鶴子さん(写真)の講演会が5月29日、橿原市・かしはら万葉ホールであった。橿原市男女共同参画推進条例制定10周年事業として、市と「参画ネットなら」が共催した。

映画は「70年代のウーマンリブに始まる40数年のフェミニズムの歴史と、現在も続いているさまざまな女たちの活動を映像で綴る」もの。それに上野さんの講演もあり、喜んで参加した。



上野さんの最初の言葉は「70年10・21は何処にいましたか」だった。「同時代」といっても、中学を出て働きだし、夜間高校へ行くのが1968年。社会・政治運動の世界に飛び込んで、当時、読んだ本は「苦海浄土 わが水俣病」(石牟礼道子)、「闘いとエロス」(森崎和江)。「リブや女性解放」といった言葉とともに、さまざまに語られていた言葉の断片が甦り、とても刺激的な話だった。

ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター
〒636-0223
奈良県磯城郡田原本町鍵301-1
TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833
E-mail:info@nponara.or.jp
http://www.nponara.or.jp/